

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 02 05	中期総合計画主要施策番号		3 - 02		担当課	部・課	衛生部医療政策課医師確保対策室	
事業名		医師勤務環境改善事業				内線		2684		
						E-mail		doctor@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	病院勤務医の働きやすい環境の整備を推進することにより、県内の病院で勤務する医師の確保を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 夜間・休日における患者の集中など勤務医の厳しい職場環境により、医師の病院離れや診療科による偏在が生じている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・勤務医の勤務時間の長さや当直の多さ、医療行為以外の業務負担の増加等が、勤務環境を厳しくしている。 ・患者の病院志向及び専門医志向、医療現場への理解不足等が、勤務医の負担を増加させている。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・勤務医の負担軽減につながる取組みを支援することにより、勤務医が働きやすい環境の整備を推進する必要がある。 ・地域住民に勤務医の勤務実態をはじめとした医療を取り巻く様々な問題を知ってもらい、地域全体で病院や医療を守り支えていくことが必要である。								
	事業内容	・病院が行う勤務医が働きやすい環境整備推進の取組みに対する補助。 ・地域医療を取り巻く様々な問題について、医療関係者及び県民が、それぞれの立場を超えて問題の背景や実態を知り、ともに考える機会としてシンポジウムを開催。								
実施期間	H20 ~		根拠法令等							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	勤務医の働きやすい環境整備を推進し、県内の病院で勤務する医師の確保を図る。		・病院が行う勤務医が働きやすい環境整備推進の取組みに対して補助する。 ・シンポジウムの開催により、地域住民に地域医療を取り巻く様々な問題の背景や実態を知ってもらう。			・勤務医の負担軽減のため、新たに医療クラークを導入・増員した12病院に対して補助金を交付した。 ・地域医療をともに考えるシンポジウムを5月17日に開催した(参加者:約500名)。また、シンポジウムの要旨を新聞紙上で紹介した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円		3,049	9,126	国庫・県単 国庫・県単			
	決 算 額 (B)		千円		2,614		実施方法 直接、補助			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円		2,254	5,564	歳出節別			
	概 算 人件費	従事する職員数	人		0.50	0.50	内訳等 報償費:263 旅費:68 需用費:95 役務費:265 使用料:123 補助金:1,800			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円		6,189	12,701	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	補助事業実施病院		病院		12	未定				
	シンポジウムの開催		回		1	1				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・病院勤務医不足の要因の一つとして、勤務医の過重労働や厳しい勤務環境が指摘されており、医師の働きやすい環境づくりに対するニーズは一層高まっている。また、医師の負担軽減のためには、患者をはじめとした地域住民の理解も必要不可欠となっている。 ・シンポジウムの企画・実施にあたっては、地域と協力・連携しながら進めることにより、有効性や効率性を高める余地がある。				
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
課題の総括		・勤務医の負担軽減のため、補助対象とする病院の取組みについて精査するとともに、効果的な取組み事例については広く他の病院にも紹介することなどにより、医師の働きやすい環境づくりを推進する必要がある。 ・シンポジウムの開催については、地域や関係機関と連携、協力しながら進めることにより、住民が一体となって地域医療を守り支えていく機運の醸成を図る必要がある。								